

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和5年度分）

＜県の評価等＞

施設所管部名： 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 熊野灘臨海公園（北牟婁郡紀北町地内）
指定管理者の名称等	紀伊長島レクリエーション都市開発株式会社 代表取締役社長 小山敏明 （北牟婁郡紀北町東長島3043番地の4）
指定の期間	令和5年4月1日 ～ 令和10年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R4	R5	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B			植物管理や公園施設の管理を適切に行った。 地域住民のみならず、レクリエーション都市として大都市圏からの誘客に向けて県や近隣民間施設との連携を行うなど、公園の効用を高める取組を行った。
2 施設の利用状況	B	B			SNSを活用した情報発信や地元観光協会と連携したPR活動を行うとともに、季節ごとに体験イベントなどを開催し、公園の利用促進に努めた。
3 成果目標及びその実績	A	B			利用者満足度は82.8%であり、目標達成となった。 ※ 成果目標は、令和4年度評価までの「公園利用者数」に替えて、令和5年度評価からは「公園利用者満足度」に変更しています。

※「評価の項目」の県の評価

「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>＜指定管理者の評価に対する県の評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 管理業務の実施状況」 業務仕様書に基づき適切に行っており、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「2 施設の利用状況」 季節ごとに体験イベント開催等の開催を行ったり、Webや各種メディアを活用した情報発信を展開するなど、積極的な取組が認められることから、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「3 成果目標及びその実績」 成果目標とする公園利用者満足度は82.8%であり、目標達成となった。適切に施設の維持・管理を行いつつ、利用促進に努めた結果といえることから、県としても指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 <p>＜今後の課題又は指定管理者への期待＞</p> <p>利用者の安全確保に向けて施設の適切な維持管理を引き続き徹底するとともに、城ノ浜プールやキャンプ場の屋外Wi-Fi設備など県が整備した施設を最大限に活用しつつ、隣接する民間宿泊施設等との相乗効果を発揮して、大都市からのレジャー需要の受け皿としての機能の強化を図ることで、公園の利用促進につなげる更なる施策展開を期待する。 また、公園利用者数のうち大きな割合を占める「道の駅」利用者を、当公園のその他の地区へ誘導して、公園全体の利用促進を図る方策の展開を期待する。</p>
--------	---

< 指定管理者の評価・報告書（令和5年度分） >

指定管理者の名称： 紀伊長島レクリエーション都市開発株式会社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 県営都市公園事業の実施に関する業務

事業実施を通じた県民サービス向上のため、以下のイベントを開催した。

(主な開催イベント)

県民の日無料開放（海岸清掃活動への参加が条件）、まるごと海体験、夏休み期間企画（縁日、ビンゴ）、クリスマスリース作り体験、年越しそばふるまい、門松設置、かるた大会

※その他、通年でクラフト体験を提供

(アップルパイ&アップルソーダ作り、思い出グラス作り、お皿お絵かき、謎解き宝探し、プリン&アイスクリーム作り体験)

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

植物管理、清掃管理、保守点検及び巡回警備等については、直営又は委託で滞りなく実施した。

トイレ施設の修繕（自動水栓、排水管等）や片上池遊歩道の修繕、遊具修繕、蛍光灯等消耗品取替を実施した。

その他、危険を及ぼす可能性のある樹枝の伐採や剪定、避難路の確認、遊具点検、施設の劣化確認、害虫等の防除、禁止事項の注意喚起等を、来園者の安全管理を最優先に実施した。

③ 県施策への配慮に関する業務

管理業務を実施するにあたっては、以下のとおり県施策への配慮を行った。

- ・ 「人権尊重社会の実現」として、高齢者や障がい者等の雇用に積極的に取り組んだ。
- ・ 「男女共同参画社会の実現」として、作業員の採用にあたっては、能力に応じて性別で区別することなく、雇用機会を創出した。
- ・ 「次世代育成支援の推進」として、子供達の情操育成につながる体験教室を多数開催した。
- ・ 「持続可能な循環型社会の創造に向けた環境保全活動と取り組み」として、県民の日キャンプ場無料利用者とともに海岸清掃を実施し、海の環境保全と清掃活動参加によるマナー向上を図った。
- ・ 「地震防災対策」として、公園内3施設（片上管理センター（道の駅）、孫太郎オートキャンプ場、城ノ浜フィットネスホール）において、消防訓練と津波避難誘導訓練を実施した。また近隣の民間宿泊施設（ホテル季の座）と共同で、紀伊長島消防署指導のもと救急法訓練を実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

熊野灘臨海公園の管理に関する情報公開実施要領に基づき適切に実施した。

なお、令和5年度の開示請求はなかった。

⑤ その他の業務

- ・ 巡視員会議を年6回実施し、公園の維持管理に係る情報共有を行った。
- ・ 利用者増進を目的とした他団体との共同連携
- ・ 道の駅まんぼうにてアンケート調査を実施し、利用者満足度等を把握した。

(2) 施設の利用状況

年間公園利用者数 685,732人 （前年度： 646,233人 対比：106.1%）

〔内訳〕 城ノ浜地区： 57,607人 （前年度： 38,631人 対比： 149.1%）
片上池地区： 581,680人 （前年度： 556,595人 対比： 104.5%）
豊浦地区： 12,357人 （前年度： 14,974人 対比： 82.5%）
大白地区： 34,088人 （前年度： 36,033人 対比： 94.6%）

2 利用料金の収入の実績

0円

〔内訳〕 有料施設の利用に伴う収入
 有料施設がないため該当なし
 行為許可に伴う収入
 0円 （紀北町開催イベントに伴う行為許可を行ったが使用料（201,872円）は免除とした。）

3 管理業務に関する経費の収支状況

（単位：円）

収入の部			支出の部		
	R 4	R 5		R 4	R 5
指定管理料	59,782,000	62,308,000	事業費	36,500,247	36,428,812
利用料金収入	0	0	管理費	36,052,907	33,504,378
その他の収入	4,903,133	4,752,103	その他の支出	0	0
合計 (a)	64,685,133	67,060,103	合計 (b)	72,553,154	69,933,190
収支差額 (a)-(b)	▲ 7,868,021	▲ 2,873,087	/		

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	201,872円
---------	----------

4 成果目標とその実績

成果目標	<p>利用者満足度 82% （なお、77%以上を「B評価（標準）」として目標達成とする）</p> <p>〔その他の目標値〕 年間公園利用者数： 670,000人 利用者満足度（イベント時）： 90% アンケート回収数： 100件 道の駅利用者数： 450,000人</p>
成果目標に対する実績	<p>利用者満足度 82.8%</p> <p>〔その他の目標値〕 年間公園利用者数： 685,732人 利用者満足度（イベント時）： 66.2% アンケート回収数： 491件 道の駅利用者数： 581,680人</p>
今後の取組方針	<p>利用者満足度は目標を達成した。 当公園の使命は、熊野古道やロケーション、美味しい魚や釣り等の魅力のPR等をし、県東紀州地域への集客交流に努め、地域活性化を図ることと考える。引き続き、PRや運営面の充実を図り、施設のスムーズな運営を行うとともに、イベント開催や体験メニューの充実に取り組む。 また、紀勢自動車道の延伸も考慮し、通過交通需要に頼らない、当公園（道の駅）を目的地として選んでもらう取組を引き続き進め、県・地域との連携を密にし、利用者の更なる拡大を図る。 安全管理では、日常巡回による安全確認の徹底を継続していくとともに、施設の経年劣化などで危険箇所や不具合等にも確実に対応していく。</p>

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B	植物管理、清掃管理、保守点検及び巡回警備等、すべて滞りなく実施した。
2 施設の利用状況	B	B	集客につながるイベントを企画・開催し、公園の利用促進に努めた。 また、地域の事業者と連携して、プールの開業を踏まえてマリンスポーツの充実に努めるなど、多様なレジャー需要への対応を進め、集客に努めた。
3 成果目標及びその実績	A	B	公園利用者の満足度は、成果目標を達成した。

※評価の項目「1」の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>●上記の評価に至った根拠・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果目標に対する達成度 利用者満足度は82.8%となり、成果目標（77%以上）を達成した。 ・ 残されている課題 高速道路の開通に伴うトンネル効果の影響を受けるなど、構造的な要因で平成22年度のピーク時の利用状況まで回復させることは困難ではあるが、通過交通に頼らず、当公園を目的地として訪れていただく方を増やす取組を通じて、より一層の利用者確保に向けたPR活動が必要となる。 また、施設の老朽化も顕著であることから、引き続き適切な維持管理を行う必要がある。 ・ その他 観光庁や県、紀北町の観光政策や地域の関係機関との連携を深め、積極的な広報活動を展開した。既存の公園利用者の顧客満足度を高めるとともに、新規顧客の獲得に向けて多方面への情報発信を積極的に行っていく。
--------	--